

「外国人患者受入れに向けた体制整備を進める意思決定 及びそのプロセスについて」

～地域の基幹病院として 公立・公的医療機関の取り組み事例～

2023年9月14日

那覇市立病院 国際医療支援室

外国人コーディネーター

田港 百合子、玉城 真紀、○池村 小葉

豊見山 直樹

目次

1. 那覇市立病院概要
2. 外国人患者対応件数の推移
3. 沖縄県を取り巻く環境
4. 国際医療支援室ができるまで
5. これまでの取組みについて
6. JMIP受審
7. 今後の展望
8. まとめ

1. 那覇市立病院 概要

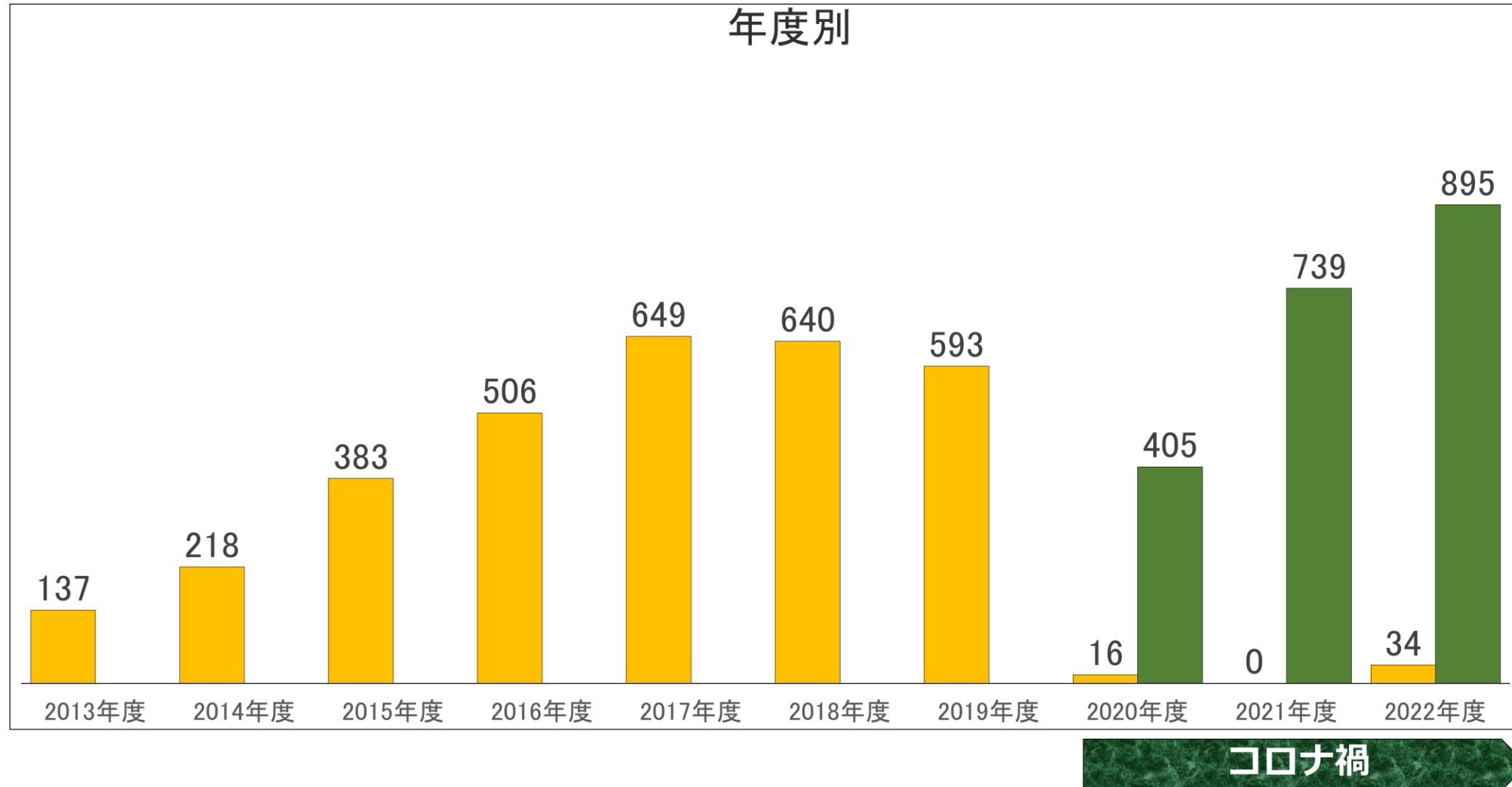
- 所在地：沖縄県那覇市
- 開設日：昭和55年5月1日
(平成20年に地方独立行政法人に移行)
- 職員数：1161人
(令和4年5月1日現在)
- 診療科目：内科、外科、小児科、
脳神経外科、放射線診療科等
36診療科 (令和5年4月1日現在)
- 理念：和と奉仕

- 病床数 470床
(一般病床 ICU10床 NICU/GCU 6床/6床)
- 365日 24時間診療
救急告示病院 (小児医療救急の充実)
- 地域周産期母子医療センター
- 地域医療支援病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 日本 DMAT指定医療機関
紹介受診重点医療機関



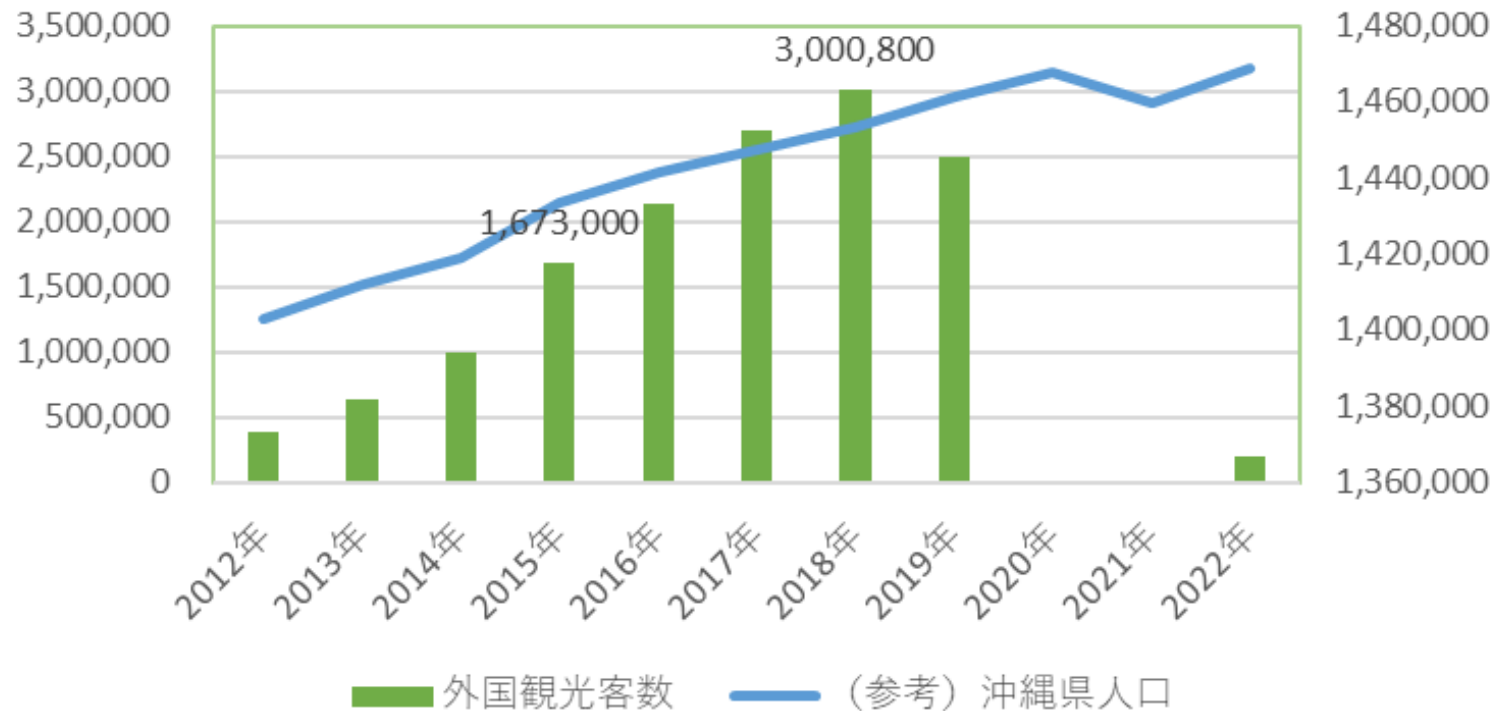
- ★国際空港、クルーズ船着岸ターミナルから5 km以内
- ★空港から直通モノレール (23分)

2. 外国人患者受入れ件数の推移



3. 沖縄県をとりまく環境の変化

沖縄県入域外国人観光客数推移



- 沖縄県への入域外国人観光客数が、2018年度に 300万人を突破
- 沖縄県の人口（145万人）の倍以上の外国人観光客が訪れた

4. 国際医療支援室ができるまで

2015年	通訳タブレットを導入
2018年	外国人患者対策ワーキンググループ発足
2019年	院内語学研修（英語・中国語）を実施 問診票や院内表示の多言語化を開始 診療費1点20円徴収をスタート
2020年	沖縄県 医療機関向けインバウンド対応相談窓口との連携 医業未収金保証保険に加入 専従外国人コーディネーターを配置
2022年	外国人患者対策委員会発足 外国人患者を受け入れる医療機関の情報を取りまとめたリストへの登録 入域外国人受診者による医療費不払い防止のための報告システムの登録
2023年	外国人患者受入れ医療コーディネーター養成研修受講 国際医療支援室発足 JMIP受審申込（初回）

取組みの事例

① ワーキンググループ発足 2018年～

きっかけ

- ・ 沖縄県を訪れる入域外国人観光客増加に伴い、当院を受診する外国人患者も増加
- ・ 対応件数が増え内容が複雑化したが、問題を集約する部門が無い

事例

- ・ 亡くなられた外国人患者さんのご遺体の移送
- ・ 死亡患者の国際霊柩送還、エンバーミング等の手順が分からない
- ・ 病状や治療方針の説明に加えて医師がお金の話をしなければならない

課題

- ・ 個別に対応した問題を集約し、的確な対策を打ち出す

① ワーキンググループ発足 2018年～

検討

- ・ 医療スタッフが専門領域に集中できる環境づくり

対応

- ・ 医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務員らが自主的に集まりワーキンググループを立ち上げて、外国人患者情報の共有や課題の検討

各部署
職員

総務課長へ
相談

メンバーが
自主的に
集まる

実施

① ワーキンググループの取り組み

- 他院の見学
- 各部署の役割を明確化
- 語学クラスの開催
- 国や自治体の支援を活用

② 1点20円徴収のスタート 2019年～

課題	- 通訳タブレットの導入等、体制整備にかかる費用の負担 - 自助努力で解決できる原資創出
検討	1点20円を徴収する対象者
対応	- 勉強会を開催し、外国人患者受入れ体制強化へ意識改革 - 自治体のインバウンド対応窓口アドバイザー (※) へ相談・連携 - 日本の公的保険をもっていない患者を対象

(※) 沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課 平成31年度・令和元年度「インバウンド緊急医療対応多言語コールセンター事業」医療機関向けインバウンド対応相談窓口

ワーキング
グループ

自治体との
相談・連携

管理会議

実施

③ 外国人コーディネーター配置 2020年～

課題	兼務のため、外国人患者対応に時間がかかる
検討	通訳手配、退院支援、文書作成等、適時対応できる体制構築
対応	- 外国人患者対応に関する分掌部門を経営企画室に定める - 専従の外国人コーディネーター1名を配置し、知識と経験を蓄積する

ワーキング
グループ

管理会議

実施

④ 外国人患者対策委員会発足 2022年～

課題

- ・ 入域外国人観光客がコロナ禍前の水準に回復間近
- ・ 様々なリスクを想定し、体制整備を加速

検討

- ・ 迅速に意思決定が行える体制

対応

- ・ 外国人患者対策委員会を設置
- ・ 委員会要綱で、協議事項、組織、会議、委員長及び副委員長の責務について定めた

ワーキング
グループ

管理会議

実施

⑤ 外国人患者を受け入れる医療機関の情報を取りまとめたリスト

2022年～



地方独立行政法人
那覇市立病院
Naha City Hospital

課題	外国人患者を受け入れる医療機関の情報を取りまとめたリストへの登録
検討	- 登録の時期 - 未収金対策
対応	2022年12月度に登録 - 合わせて未収金対策報告システム (※) にも登録

(※) 厚生労働省 入域外国人受診者による医療費不払い防止のための報告システム

外国人患者
対策委員会

実施

⑥ 国際医療支援室 開設 2023年～

課題	- 国籍を問わず質の高い医療を提供するための責任を果たしていく - JMIP受審
検討	- 開設の時期 - 業務分掌の整理
対応	- コロナ禍3年を経て2023年5月に開設 - 室長（副院長兼務）と外国人コーディネーター3人 - 外国人コーディネーターは外国語対応ができる職員（英語/中国語）を配置 - 外国人患者に関する支援、院内体制整備、渉外業務等を担う

ワーキング
グループ

外国人患者
対策委員会

管理会議

実施

6. JMIP受審（初回）

JMIP取得を目指した背景



一般財団法人 日本医療教育財団
外国人患者受入れ医療機関認証制度
Japan Medical Service Accreditation for International Patients

様々なリスクの防止

JMIP評価基準に沿って体系的に整備していくことで、未収金問題、宗教・文化的配慮、言語、等リスクの防止になる。



職員を守る

医療従事者が安心して外国人患者対応ができ、外国人患者も安心して当院を受診できる好循環を目指す。

7. 今後の展望

宗教・生活習慣に対応した
院内環境整備

必要な配慮について知る

- 診療受付票の中で必要な配慮を確認
- 祈祷室の設置

コミュニケーションツールの
充実

現場職員の意見を反映した
ツールの作成

- 会話集
- 指さし表
- マニュアルの整備
- スタッフ研修の実施

病院全体で受入れる体制の
更なる強化

様々なケースを想定した
体制整備

- 事例の振り返り
- 課題の発見
- 相談・連携

8. まとめ

- 当院の外国人患者受入れ体制は、「各部署の経験知を集約する」というボトムアップで始まった
- 環境整備は外国人患者だけでなく、全ての患者と職員が安心できる病院づくりになる
- 当院の理念「和と奉仕」を具現化し、今後もチーム医療で地域に貢献していく

2025年新病院開院予定



ご清聴ありがとうございました